

地域デザインミュージアムとは何か

参考にしたもの

- 「復興デザインスタジオ」ガイダンス資料
- 復興デザインスタジオの羽藤先生の講義
- 俺的解釈

「計画」の問題点①

合理的な方策とそこに住む人の意思は必ずしも一致しない

- 御荘地域に住む人は城辺など他地域に移転してもらったほうが津波被害が少なく済むが、移動したくない
 - まちを1箇所を集めてコンパクトにしたほうがコストが安くなるが、みんな移動したくない
- ⇒ 行政など計画側が抱える問題意識を共有し、声を拾って対話する。そのうえで何がベストか考える

「計画」の問題点②

計画ではどうにもならない領域がある

- 計画とはstaticなもの。特に，地域での活動にはタッチしづらい
ex)お料理教室を行政が義務付けるわけにはいかない
⇒ 問題解決のための「自発的な」地域の新たな動きをつくる

地域デザインミュージアムとは

問題解決のために地域を駆動させる

- 地域を深く理解し、将来に向けた選択肢を考え、意見交換，協働ができる場
- これによって、問題解決のための地域の **新たな動きを生み出していく**
- 現地調査われている地域の様々な活動を芽吹かせる(パワーアップさせる)

2つのデザイン

地のデザイン

- 地域(資源)を回遊することによる地域の理解

図のデザイン

- 拠点となる場所で滞留して行う活動や対話，交流の場

ミュージアムの作り方

手順

- 現地で各個人の声を拾う
 - 何が大切で何に困っているか？
 - その背景にはどんな社会問題があるか？
- 現地での声を出発点に，問題解決のための対話や体験の場をデザインし，地域の新たな動きが生まれるきっかけにする
- 古民家や広場，参道(山道?)を都市装置として用い，どんな空間でどんな活動を行うのか考える
- すでにある地域の様々な活動を読み取って，うまく活用する

ヒント

展示方法

- 模型・動画・インタラクティブ・参加型などさまざま
- デジタルなら水平展開が可能(その地域にかかわるのはそこに住む人だけではない)
- 地図を介して対話型にする(松山UDC)

展示内容

- 「語り」そのものを展示する
- 問いや問題意識そのものを展示する
- 文化財でなくても地域資源と呼べるものはたくさんあるはず
- 土地利用の提案があるならそこを意識させる
- 歴史調査，測量，データ分析等のリサーチの成果
- インタビュー
- 事前復興，復興まちづくりの提案

調べておくべきこと

- これまでのスタジオの成果
- 展示・ツアー・WS・冊子などさまざまなことにもうすでに取り組まれている
- 提案も様々行われてきていてそこにヒントとなる計画や問いがちりばめられている
- 現地調査
- 現地調査で見たこと感じたこと聞いたことこそ出発点であり一番大事
- 事前復興フォーラム
- 現時点での事前復興の在り方について語られているので必見
- 過去のレクチャー動画
- 見たほうがいいって書いてた

決めなきゃいけないこと

- 展示のアイデア，コンセプト
- 誰をどのようにどうやって何人集めるか
- どういうスケジュールで行うか